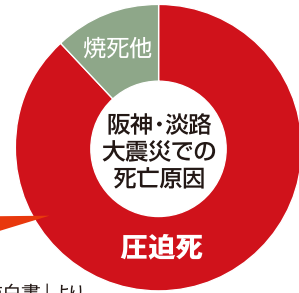


# ●地震に対する日頃の備え 家庭で準備できること

阪神・淡路大震災の死因は、家屋の倒壊や家具の転倒などによる圧迫死が大半を占めていました。そうならないためには、あなたの家の内外を点検し、いざというときに備えることがとても大切です。



**圧迫死が全体の88%**

消防庁「消防白書」より

## 家族で防災会議を開こう

地震の被害を小さくするためには日頃からの備えが大切です。身の回りの安全について家族で考えましょう。

### 1 家族一人ひとりの役割を決める

家族で話し合っ、災害発生時の役割を決めておきましょう。

- 火を消す
- ガスの元栓を閉める
- 子どもやお年寄りの安全を確認する



- ラジオ・テレビなどで情報を確認する
- 出入口を確保する

- 危険物を安全なところへ移す
- 消火器、バケツなどを準備する
- 電気器具のコンセントを抜く、ブレーカーを切る



- 非常持ち出し品を確認する
- すぐに戻ってこれない家族へ伝言を書いておく

### 2 危険箇所をチェックする

家の内外に危険箇所がないかどうかチェックしましょう。危険な場所は、修理や補強について話し合しましょう。

### 3 「非常持ち出し品」と「非常備蓄」をチェックする

必要な品がそろっているか確認します。また定期的に保存状態や消費期限を点検し、必要なら交換しましょう。(26ページ参照)

### 4 防災用具をチェックする

消火器や救急箱を確認しましょう。消火器の使い方や応急手当の方法(23~25ページ参照)を覚えておきましょう。

### 5 緊急連絡カードを用意する

家族の避難場所や落ち合う場所、家族の連絡方法などを話し合い、決めたことは緊急連絡カードとして記入したものを携帯するようにしましょう。(巻末参照)

(例)

緊急連絡カード	
住所	〒 _____ 市 _____ 区 _____ 丁目 _____ 番 _____ 号
氏名	姓 _____ 名 _____
避難所	〒 _____ 市 _____ 区 _____ 丁目 _____ 番 _____ 号
家族が 避難する 際の連絡先	氏名 _____ 住所 _____
家族以外 の連絡先	氏名 _____ 住所 _____

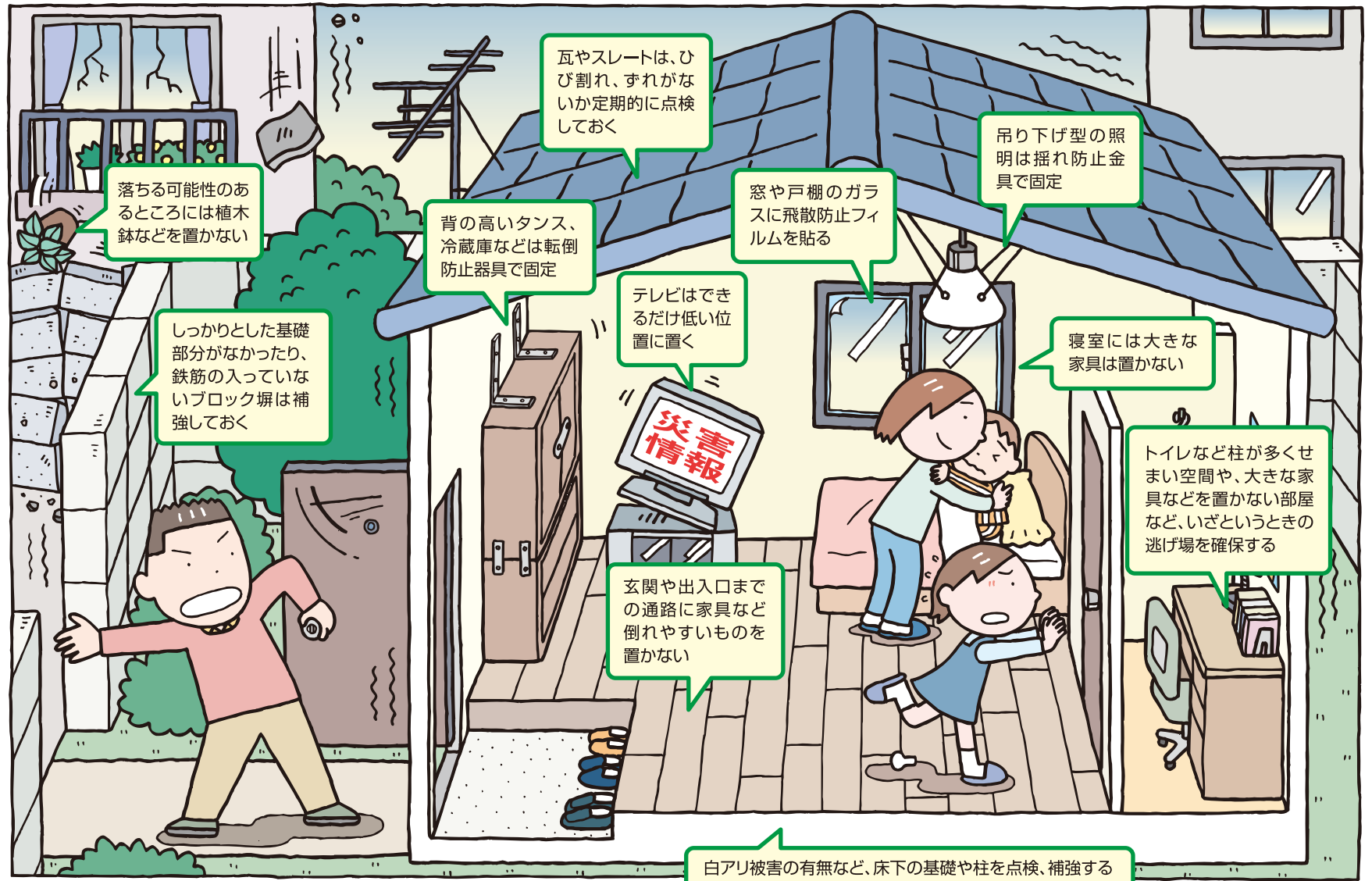
### ●我が家の防災マップをつくろう●

家の付近の危険な場所や避難場所(小・中学校、公園など)を確認します。避難経路は1つではなく、通行できない場合に備えて複数決めておきましょう。それらをイラストなどで簡単にあらわした「我が家の防災マップ」を作成し、家族で避難経路などの下見をしましょう。(27ページ参照)



※お近くの避難所がわからない場合は、大阪市のホームページで確認していただくか、区役所にお問い合わせください。

## あなたの家の**安全対策**はだいじょうぶですか？



## あなたの家の**耐震対策**はだいじょうぶですか？

あなたは家屋の耐震診断、耐震補強などの対策をしましたか？ 特に昭和56年(1981年)5月31日以前の旧耐震基準で建てられた建物は、地震に対して強度がどの程度か調べるのが重要です。

■建設時期と地震被害状況(JR三宮駅近辺における全数調査)

建設時期	大破・倒壊	中破・小破	無被害・軽微
昭和56年(1981年)以前の建築	29%	37%	34%
昭和57年(1982年)以降の建築	9%	16%	75%

(「平成7年版阪神・淡路大震災調査委員会中間報告」(建設省)に基づき作成)

### 「耐震診断」、「耐震改修」を応援します

建物に不安がある場合は専門家に診断を依頼し、強度が不足していれば耐震改修を行う必要があります。大阪市には、震災に強いまちづくりをめざし、耐震診断・改修費用の一部を補助する制度があります。詳しくは、大阪市住まい公社(☎6882-7053 ☎6882-0877)にお問い合わせください。